

# ネット販売の急増で宅配業界に異変

## —— 急速に設置が広がる宅配ロッカー ——

ネット販売実施企業上位30位のネット販売売上高 単位:百万円・増減率・占有率:％、※:通販新聞推定

順位	社名	前期実績				今期見込み 全通販売 上高の占 有率	決算月	主要商材	
		PC+モバイル 売上高	増減率	モバイル 売上高	増減率				
1	アマゾンジャパン	1,176,800	17.6	※ 588,400	—	100	—	12	総合
2	ヨドバシカメラ	108,000	8.8	—	—	100	118,000	3	家電
3	スタートトゥデイ	76,393	40.4	※ 56,225	51.5	100	100,000	3	衣料品
4	千趣会	73,782	▲4.8	41,115	7.7	69	—	12	総合
5	◎Rakuten Direct	※ 60,000	—	—	—	100	—	12	日用品
6	ディノス・セシール	受 58,260	▲2.4	—	—	54	—	3	総合
7	上新電機	※ 55,000	—	—	—	100	—	3	家電
8	デル	※ 50,000	—	—	—	100	—	1	PC
9	ジャパネットたかた	※ 49,840	—	—	—	28	—	12	家電
10	◎イトーヨーカ堂	47,396	7.8	—	—	100	—	2	食品
11	ユニクロ	42,167	30.1	—	—	100	—	8	衣料品

今や社会問題にまでなっている宅配業界の大異変は、近年のネット社会の中で急激に増加した「ネット通販」の影響が大きいことは言うまでもありません。私自身を振り返っても、宅急便等を一回で受け取れないことが多いので、大変迷惑をかけていると思われています。

つまり再配達増加の背景には、一人暮らしや共働き世帯が増えたことにあり、受取りが夜間に集中するケースが増えました。そのため宅配ドライバーの長時間残業や休日返上が慢性化し、宅配スタッフの退社が増え、企業としても人員不足の状態で行き詰まってしまった訳なのです。

そこで通販業界と宅配業界が共に問題点を共有化し、流通業界も巻き込んだ大改革が始った訳です。

まず第一としては、配送料の値上げを実施し、スタッフの増員を計ったことです。第二には再配達率を下げる為に、宅配ロッカーの設置を増やすことと共に、駅やコンビニ等に冷凍対応型共用宅配ロッカーを設置しているところなのです。

